

日本予防理学療法学会 COVID-19 関連エビデンス

海外情報

No.12

調査者	岡本 祥吾
情報ソースの刊行日	2020年4月18日
情報ソースの調査日	2020年5月5日
日本理学療法士学会 HP に公開された日	2020年5月6日
日本語タイトル	COVID-19発生時の医療従事者の心理的転帰および関連する身体症状に関する多国籍多施設研究
情報ソース	Brain, Behavior, and Immunity
情報のカテゴリー	多国間多施設研究
発信地域	シンガポール
DOI	10.1016/j.bbi.2020.04.049
URL	https://doi.org/10.1016/j.bbi.2020.04.049
要約	<p>医療従事者の心理的転帰と身体症状の関連を調査 期間: 2020年2月19日から4月17日までの期間 対象: シンガポールとインドの COVID-19 患者のケアに関与する 5 つの主要病院の医療従事者 906 人(Dr,Ns など) 方法: アンケート方式。内容は、人口統計、病歴、過去 1 か月の症状の有病率、うつ病不安ストレススケール (DASS-21、およびイベントの影響スケール改訂版 (IES-R)) 。</p> <p>・結果 48 人 (5.3%) が中等度から重度のうつ病の陽性 79 人 (8.7%) が中等度から極度の不安 20 人 (2.2%) が中等度から極度の重度のストレス 34 人 (3.8%) 中程度から重度のレベルの心理的苦痛 (32.3%) 頭痛。最も多い 多数の参加者 (33.4%) が 4 つ以上の症状を報告しました。また、これらがうつ病 (95%CI)、不安症 (95%CI)、ストレス (95%CI)、および PTSD (95%CI) は、前月に経験した身体的症状の存在と有意に関連していました。</p> <p>・結論 この研究により、COVID-19アウトブレイク中の医療従事者の身体症状の有病率と心理的転帰との間に有意な関連があることを示された。この関連は双方向である可能性があり、感染が除外されたら、身体症状のある医療従事者に対するタイムリーな心理的介入を検討する必要があると仮定される。</p>
最も注目するポイント 理学療法にどのように役立つか?	Covid-19 患者ケアに対応する医療従事者の心理的ケアが必要と対策が求められる。特に管理者は、医療従事者の減少を招かないよう対応が必要。

